

## 「第18回日本臨床環境医学会学術集会特別講演」

(臨床環境18:67, 2009)

## 座長からのひとこと

— 出原賢治「アレルギー疾患の発症機序における環境要因の役割」 —

相澤好治

北里大学医学部衛生学公衆衛生学

近年アレルギー疾患を持つ国民の割合は3割を占めるといわれ、その増加の機序が議論されている。その中で大気汚染、生活環境や食品等を介する化学物質曝露機会の増加、花粉飛散の増加がその要因として挙げられている。一方、結核をはじめとする感染症の減少などによる免疫系の変動すなわちTh2免疫反応の増強が、アレルギーの増加を説明する要因として主張されている。

講演者の出原賢治教授は微生物由来のリポポリサッカライド(LPS)受容体であるToll受容体4を介したシグナルがTh2型免疫反応を抑制することから、衛生状態の改善がアレルギーの増加の要因となっていると論じている。環境因子とアレルギー疾患の関連を明らかにすることは、病態の解明だけでなく、予防と治療に寄与すると考えられ、本学会員に裨益することが大きいと思われる。

## 第18回 日本臨床環境医学会学術集会

合同開催：第54回日本産業衛生学会・アレルギー免疫毒性研究会

【会期】2009年7月3日(金)～4日(土)

【会場】さん太ホール(山陽新聞本社ビル)

【会長】川崎医科大学衛生学 大槻 剛巳

【テーマ】

## 創造 一笑顔の未来へ



## ■特別講演

出原 賢治 (佐賀大学医学部分子生命科学講座)

## ■シンポジウム ストレス科学～脳科学の最前線

講師：榎田 一徳 (川崎医科大学解剖学)

安藤 哲也 (国立精神・神経センター精神保健研究所心身医学研究部ストレス研究室)

六反 一仁 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部)

プロテオミクス医科学部門生体制御医学講座ストレス制御医学分野)

## □市民公開講座(7月4日午後)

## アスベスト関連疾患の克服に向けて

講師：大槻 剛巳 (川崎医科大学衛生学)

岸本 卓巳 (岡山労災病院)

岡田 守人 (広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム疾患治療研究部門腫瘍外科)

【会場】さん太ホールへの交通アクセス

JR 岡山駅から徒歩15分  
(市役所前を南へ下る)路線バス5分  
(山陽新聞社前下車)

【問い合わせ】

〒701-0192 鳥取市松原577 川崎医科大学衛生学 大槻剛巳

電話：086-462-1111 内線27352 FAX：086-464-1125

Eメール：takem@med.kawasaki.ac.jp

jce18@med.gakkai.com

学術大会ホームページ：http://www.kawasaki-m.ac.jp/soc/18jce/

## 第18回日本臨床環境医学会学術集会のポスター